◆平城宮北方遺跡の調査―第282-17次

はじめに　住宅改築にともなう調査である。調査地は、日葉酢媛命陵より尾根沿いに南へ約200m、北面大垣推定線より北へ約30mに位置する。本調査区の南隣には奈良時代の東西溝SD118を検出した第223-2次調査区（平成3年度）がある。また、本調査区を含む宮北方地域には、平城宮に関連する施設の存在が指摘されており、本調査では、この宮関連施設の検出を目的とした。

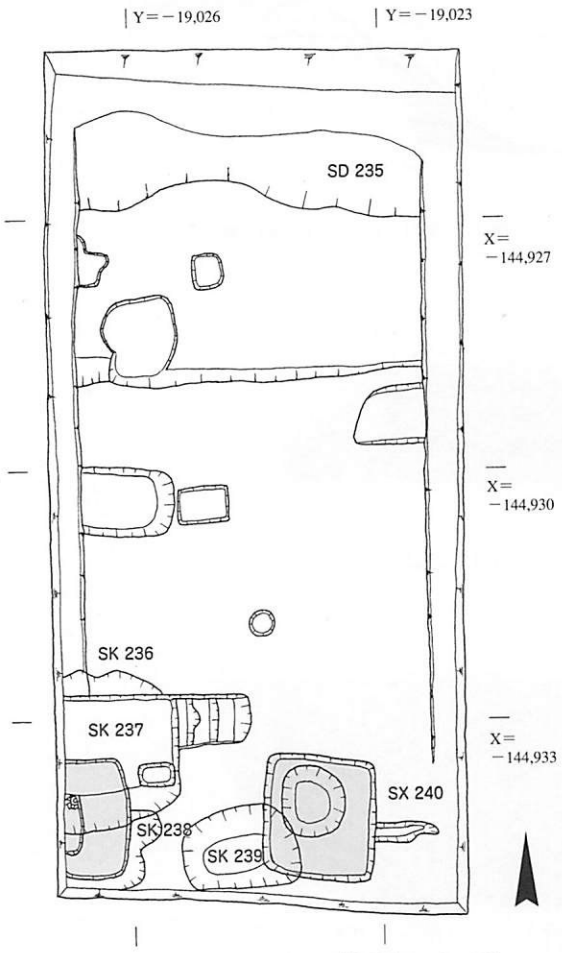

図93　第282-17次調査　遺構平面図　1：60

検出した主な遺構　調査区は中・近世以降より近代に至る数度の削平・攪乱を受けている。表土下には大量の建築廃材を含んでおり、これらの廃材を除去したところ、調査区北辺において、蛇行する溝SD235を地山面で検出した。この蛇行溝は遺物をともなわないため、年代があきらかでない。調査区中央では奈良時代の整地土を検出した。また、調査区南辺では、近世から近代の比較的大きな土坑がある。とくにSK237は階段状の構造を有しており、近代の防空壕ないしは地下式の倉庫であろう。これらの土坑埋土を除去したところ、下層に奈良時代の柱穴列SX240を検出した。本調査区内において、これに関連する柱穴列は検出されず、遺構の性格は不明である。柱間寸法は抜取穴の心心で約10尺である。

出土遺物　中・近世以降の土器が多数出土した。

出土瓦塼類は表19の通りである。軒平瓦6664Cは、柱穴列SX240の西側の柱抜取穴より出土した。

まとめ　奈良時代の遺構として、柱穴列およびその北側に整地土を検出した。本調査区の南に隣接する第223-2次調査区では奈良時代の東西溝を検出している。これらの遺構がどのように関連するのかは、現時点では不明だが、平城宮北方に宮関連施設が存在したことを示唆するものといえる。

（高妻洋成）

軒丸瓦		軒平瓦		丸瓦	
型式　種	点数	型式　種	点数	重量	6.2kg
近世巴	1	6644　C	2	点数	59
		型式不明	1	平瓦	
		近世軒平瓦	5	重量	30.0kg
				点数	252
				道具瓦	
				鬼瓦	1
軒丸瓦計	1	軒平瓦計	19	近世割熨斗	1

表19　第282-17次調査　出土瓦塼類集計表